



富津市役所前にて

総務常任委員会

調査研究テーマ「防災について」

地区別防災カルテで 自主防災（2月8日 市原市）

市原市の「防災カルテと防災ボランティア事業」を視察し、取り組み内容を伺いました。

防災カルテについては、521の町内会、454の自主防災組織や市民の集まりなどで説明をし、周知徹底に努めているとのことでした。

また大規模地震などの災害時に電話回線が不通になった場合を想定し、アマチュア無線を利用して被災地域へ救援活動を支援するために協力いただく「市原市通信ボランティア」組織（登録者35名）に、非常時の通信活動への支援をお願いしてあるとのことでした。

なお、防災カルテの調査結果から判明した、災害時の避難の障害となる狭い道路の改良を行うため、地区民の責務として積極的な道路用地の寄付を促しているとのことでした。

議会棟前にて



産業建設常任委員会

調査研究テーマ「用途指定について」

問われる「地理的条件」に 合わせた開発（2月8日 富津市）

富津市では「市街化区域および市街化調整区域」と「用途指定地域」「無指定地域」の3つが共存しています。

これまでの開発と規制の状況

- ・「線引きによる都市計画」が導入された地域では、県営工業団地が誘致され、多くの企業が立地している。
- ・「非線引き都市計画区域と無指定地域」では、適切な開発指導により、1000平方メートル以上の土地に対する乱開発に対し、一定の歯止めが効いている。

今後の取り組み

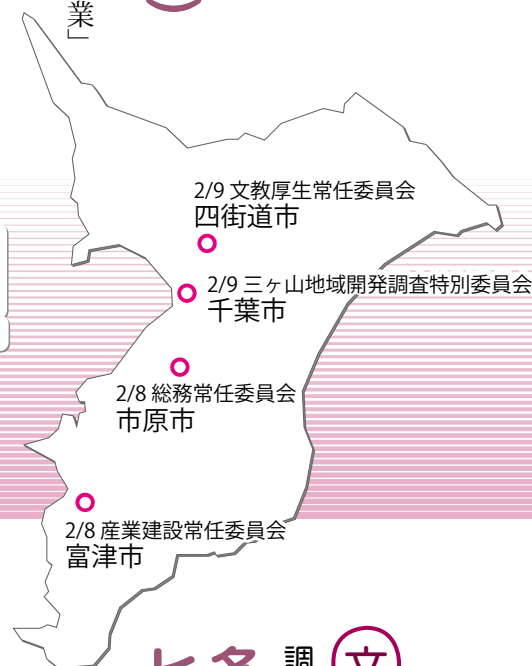
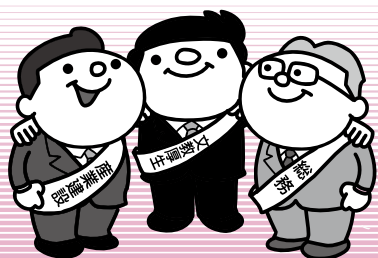
- ・都市間競争に負けない商業施設の誘致を目指した用途地域の見直しの検討。
- ・都市施設の整備が遅れているため、財源としての都市計画税の付加と住民合意。
- ・3つの土地区画整理事業が計画され、整備が完了した事業の債務超過対策。

千葉県内において、今後の開発と土地利用の規制、誘導について検討が始まっている。

視察を終えての所見（考察）
地理的条件に合わせた開発のあり方が問われる。開発と規制、および負担のバランスをとることの難しさと重要性について改めて認識した。

委員会の合同視察、今回は千葉県へ！

学んできました。先進地の「防災、少子化対策、土地活用、環境保全」



文教厚生常任委員会

調査研究テーマ「少子化対策について」

多彩な少子化対策に ヒントあり（2月9日 四街道市）

四街道市は首都圏のベッドタウンとして人口増加が続く、自然と都市機能が調和したまちです。

子育て支援サイト「すくすくネット」では、急増した人口の子育て環境の充実が急務となった市の「官民協働」による子育て情報がワンストップで閲覧できます。行政情報とともに、民間支援グループ27団体が登録し、情報を提供しているとのことでした。

「プレーパークどんぐりの森」は、既存の与えられた公園ではなく、子どもたちが自分のできる遊び場です。管理運営は市民組織に委託し、「自分の責任で自由に遊べる」空間づくりを目指し、市が協働事業としてバックアップしています。



子どもが遊びをつくりだす「どんぐりの森」

第四次三ヶ山地域 開発調査特別委員会

調査研究テーマ

「三ヶ山地域の開発について」 有用なリサイクル手法 「メタン発酵」（2月9日 千葉市）

千葉市にある「ジャパン・リサイクル（株）バイオガスセンター」を視察しました。1日30トンの食品廃棄物をメタン発酵させ、メタンガスを回収している会社です。

食品廃棄物とは、食品加工製造過程で発生するクズや排水処理汚泥、食品流通過程で生ずる賞味期限切れ食品、食べ残し等を指しますが、水分が多く、焼却処理には不向きでした。メタン発酵は本来、濃厚有機物排水からエネルギーを回収する技術で、し尿処理や下水道汚泥処理に適用されてきましたが、食品リサイクル法で飼料化、堆肥化と並んで有用なリサイクル手法とされています。

センターでは、発酵槽で20日程度で有機物の80%をメタンガスに転換し、隣接する製鉄所に販売しているとのことでした。

今回の視察を踏まえ、第Ⅱ期事業の参考にすることとしました。



ジャパン・リサイクル(株)バイオガスセンターにて